

NEWS LETTER Vol.4

2016年
春季号

平成28年3月
刊行

小村寿太郎侯東京奉賛会 広報誌

CONTENTS

- シリーズ講座「小村寿太郎に学ぶ」に参加して
- 講演報告 11月一金会講演「魂の日英同盟」
- 平成27年第4回総会・懇親会報告
- 平成27年小村侯青山墓所 参拝・清掃活動報告
- 平成28年事業計画（案）
- 奇功書籍紹介 1905年（明治38年）刊行「写真画報 臨時増刊号」
- 募集 歴史紙芝居「小村寿太郎」の有効活用について
セミナー・学習会希望テーマ、実施要綱について



ごあいさつ

小村寿太郎侯東京奉賛会は発足4年目を迎えることになりました。この会は明治維新の総仕上げを行った小村侯の業績を評価・研鑽し、これを広く世に伝えていくことを主眼として発足したものです。本会の発足当時は、文字通り暗中模索、手探り状態での出発でした。しかし、三年目の昨年を振り返ってみますと思いの外、充実した年であったと思います。改めましてここに協力、ご尽力をいただきました多くの皆様をはじめ、運営推進にあたったスタッフ一同に衷心よりの御礼と敬意を申し上げます。

まずは、当初からの念願でありました学習会をシリーズで4回開催し、多数の皆様のご参加をいただき、ご好評を頂きました。また、本誌のニュースレターを始め、外部団体を対象とした広報活動も確実に拡充することができました。会員相互、一般の方々との親睦を図る目的で、一昨年は葉山・小村侯終焉の地、三浦半島めぐりの実施、昨年は「明治を旅する」と題して世界遺産登録1年目の富岡製糸場・絹産業遺産群見学の親睦バスツアーを企画・実施致しましたが、これも成功裡に終了することが出来ました。

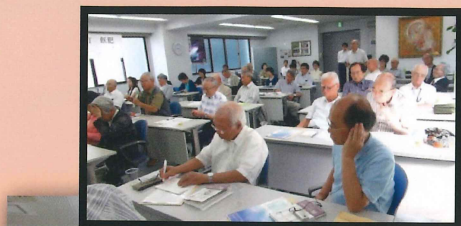
当初から見ますと比べるべくもなく充実して参りましたが、まだまだ半歩・一步に過ぎません。今年も当初の目的達成のため活動して参りますので、引き続き皆様のご協力・ご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

会長 川村 蒼 市

日本が近代国家として独り立ちする過程において、その総仕上げを行った小村外交。世界の外交舞台で活躍し、欧米列強を相手に日本の世界的地位を確立した小村寿太郎の信念を貫いた生き方を数々の業績と共に学ぶ！

シリーズ 小村寿太郎に学ぶ

第一回（7月）



第二回（9月）

第三回（10月）

第四回（12月）

2015年（平成27年）は小村侯が飢肥に誕生して160年目の年であり、同時に、1905年、侯の偉大な業績の一つである日露講和条約が米國ポーツマスにおいて調印されて110周年となりました。

この記念すべき節目の年にあたり、当時、二度にわたる外相就任で、日本の外交のすべてを担った小村侯の不撓・不屈の精神と生き方は、現代にも生きる智慧として学び、伝えるべきものであるとあらためて確信し、小村侯のこの信念の根源に触れ、学ぶために、飢肥の幼少期から外交官として偉大な業績を残すまでをシリーズで検証する講座と致しました。

参加された方々から、多くのご感想ご意見を頂戴しておりますので、その一部をご紹介します。

- 第1回 7月11日
幼年期の小村侯と城下町飢肥
講師 長友禎治 氏
日南市国際交流センター
小村記念館 学芸員
- 第2回 9月12日
小村寿太郎 学生・留学時代
講師 長友禎治 氏
- 第3回 10月10日
外交官、小村寿太郎
講師 平野恵一 氏
明治外交史 研究家
- 第4回 12月5日
外相 小村寿太郎
講師 富塚一彦 氏
外務省外交史料館
外交公文書 編纂官

「誠実」という生き方

安田治子 氏

朝まだき、小村家に提灯の明かりが灯った。寿太郎の祖母・クマが振徳堂に通う孫の為に、暗い道を提灯を下げて順番を取りに行くのである。

この話は小さい頃良く聞かされた。飢肥小の校歌の一節に「輝く偉人生まれし地」とある。私達も飢肥小、飢肥中では、振徳堂の門をくぐり（正門はまたぐのが大変なので、脇の通用門をくぐり）庭を通る方が通学には近道だった。帰りには振徳堂の座敷が時々開放されているので、友達とこっそり上がって緊張して正座してみた。

高校では竹香園の坂を登り、小村侯の銅像を右手に見て、いつも遅刻すれすれに駆け込んだ。

あれから幾星霜・・・

「ポーツマス」の旗」も読んでそのままになった。

しかし昨今のテレビの歴史番組では「その時小村外交でやったことは・・・」と話題になり、内心「全国的になりつつあるな。みんなちゃんと聞けよ」と誇らしく思った。そして今回の四回シリーズ講座である。学ぶことが多く、知らなかった偉業の数々にわくわくした。資料を読み直しながら再度聞いてみたいと思う。

そして「誠実」という生き方は、不変のもので、総てにあてはまり人間が生きてる時の方程式にもなりうるという事、これは私にもできそうな気がする。

日南市では生誕百六十周年を機に、子供達に対する啓蒙事業が始まっている。

「君よ！知るや小村寿太郎」と、生活習慣として、丁寧に系統的に教えられると、将来は相当なものになっていく。

その実りを想像するだけで楽しくなっ

しまう。頑張れ若者たち！と心から応援したい。



旧飢肥藩 藩校 振徳堂

郷土の偉人の人となりをもっと多くの人へ

黒木公子 氏

私が小村寿太郎侯を初めて知ったのは、昭和二十七年の四月、小学校入学式の時に講堂の正面左側の上に、小村侯の肖像画が掲げてありました。

それから六年間、講堂で何時も小村侯の顔を拝顔して過ごしました。

ただ小学校の折に先生から聞かされていたのは、明治の偉大な外務大臣だったということだけでした。

祖父が小村侯の甥子にあたる小村俊一氏と、とても親交が深く、小村侯の小さい時のお祖母様との話は、よく聞かされておりました。この講座の第一回、第二回の講師長友楨治様の飢肥藩時代の小村侯、それから長崎を経て東京に行かれた時のお話を聞きまして、祖父から聞いておりました話と重なり、また私の保育所が振徳堂だったこと、一年生の時の遠足が竹香園の小村侯の銅像の所だったことを思い出し、当時飢肥小学校で、もう少し郷土の偉人、小村侯に

ついて学ぶ機会があったらよかったのにと、今思いますと残念です。

第三回外交官時代(前期)の講師平野恵一様の講演では、お話にすっかり魅了されました。明治時代の初期、江戸幕府が終わって数年、その時代に小村侯が英語に堪能だったことは、改めて小村侯の努力の凄さを感じさせられます。

難題のポーツマス講和条約締結の折の凄まじい努力と精神力等、あの小さな体のどこから生まれたのだらうかと思えます。

それには小村侯のご友人達の支えが大きかったのではと、又ポーツマスでの講和締結までの過程には、岩手南部藩出身の高平小五郎の支えが多であったことと思えます。

第四回外交官時代(後期)の富塚一彦様の講座では、明治という時代を背負った多くの政治家の方々の生きざまが感じられ、その中で小村侯が大変重要な役目を果たされた事、明治の日本にとって如何に大事な役割を果たされたが理解出来て、とても勉強になりました。この講座では、大変貴重な資料を頂くことができ、嬉しく思っております。

まだまだ不勉強ですが、これからも、この様な講座が開かれる時は、是非受講させていただきます。

私が感じたことは、地元日南の方々にもせめてもう少し郷土の偉人小村侯の人となりを知って頂けたらということです。

終わりにあたり、この企画を立ち上げていろいろな資料を御提供頂き、その回毎にご案内を頂きました事、お礼申し上げます。



竹香園 小村寿太郎侯像

槐島氏と英文「私の自叙伝」

高妻光昭 氏

竹香園の丘の上に建てられた小村寿太郎侯の銅像前を通って高校通学していました。実は、その時代あまり熱心な寿太郎ファンではなかったように思っています。

寿太郎侯はポーツマス講和会議に向けて出発時には盛大な見送り、条約を締結して帰国すると国民から総スカンを食らったこと。また、ポーツマスではロシアの全権ウイッテから寿太郎侯に「日本人はこんなに小さいのか」と言われ、寿太郎侯は、すかさず「日本では、大男総身に知恵が回るかねと言うのだ」と切り返したとか何かの本で読んだ気がします。この程度のことしか知りませんでした。

今回、このセミナーに参加させていただいて寿太郎侯に対する思いが「目から鱗が落ちた」感じでした。

特に小村侯の生い立ちと少年時代は、全く存じ上げていませんでした。また小村侯の研究に携わっておられる各方面の先生方が宮崎県だけでなく、日本中に沢山いらっしゃることに驚きました。

今回、4回のセミナーに参加して、最も感激致したのは、画商・槐島光彬君のエピソードと、そのインタビュの素晴らしいDVDを見せていただいたことです。

槐島君は、高校の11ホーム(一年一組)で机を並べた仲でした。あれから五十八年ぶりに、彼の姿を見せていただき、インタビュアーに有難うの念でいっぱいです。

槐島君のおかげで、「瓢箪から駒」ではないですが、寿太郎侯が十八歳の時に書いた世にも貴重な英文の「私の自叙伝」が発掘された由、改めて感動しました。

今回、このセミナーに参加させていただきました。き、とても勉強になりました。

マチ夫人のこと

荒武泰雄 氏

小村侯の妻、マチ夫人は「ポーツマス」の旗」等では悪妻と記されているが、この講座で入手した資料を読むと、置かれた環境は気の毒である。

小村侯は結婚後一年半ほどして義父の会社が倒産し、多額の負債を一身に背負うことになった。小村侯の月給が百五十円の時に一万五、六千円の借金で月給の約百倍である。給料日には債権者が役所や家まで押し掛けてきて、月給の四分の三を持って行く。残りの四分の一で生活をする。この四分の一が今日ではどの位の額か解らぬが、食費だけに当てても足りない額ではないのか、そう思わせる事として、家は雨の日には家の中で傘をささねばならない様なありさまで、畳は破れ、座敷を鼠が走りまわる。栄養不足で長男は夜盲症になったとある。

会社が倒産した明治十五年（小村侯二十七歳）から明治二十六年（侯三十九歳）まで借金取り追いかけていた。夫人の実家は旧幕臣（旗本）で、小村侯は結婚して初めて妻が家事を一切しないことを知り、がく然としたとある。

要するに夫人は経済的に豊かな家で、過保護に育てられたのであろう。小村侯の借金さえ無ければ、平穩無事に一生を送れたと思うが、豊かな家から嫁いできて、①生活費は足りない。従って満足に食事も取れない。②子供は栄養不足で夜盲症になる。

③住んでいる家はボロボロ。④借金取りは家にも押し掛けてくる。

このような状態では普通の女性でもダメージを受けて前向きの行動が取れないのではない。そうであっても、小村侯に協力していくべきであるが、それが出来なかったのである。以上筆者の勝手な推測です。



小村寿太郎夫人

英文「私の自叙伝」

郷土の偉人への熱き敬愛の念

三崎屋義正 氏

大学の友人、樹田嘉生氏のお誘いを受けて参加させていただき、明治外交の父・小村寿太郎侯の多くの事について貴重な講義を受講する機会に恵まれました。門外漢の私をお仲間の一人としてお取り計らい下さいました事、誠に有難く感謝致しております。シリーズ講座の各回において、特に印象深い事項、重要と思いましたが事項は

第一回

日南（飲肥藩）の歴史、ご家族、同郷の先輩方、振徳堂時代等。特にご家族。

第二回

貢進生時代と交友、米国ニュージャージー州ラトガース大学保存の英文文書「私の自叙伝」。特にラトガース大学と日南市の出会いと結びつきの偶然性等。

第三回

外務省不遇時代、不平等条約、大津事件、莫大な負債。特に高利貸し問題解決の学友との友情支援。

第四回

外相（2度）時代の活躍―日英同盟、ポーツマス講和会議、韓国併合、不平等条約改正（治外法権の撤廃と関税自主権）特に外務省「日本外交文書」資料の数々。

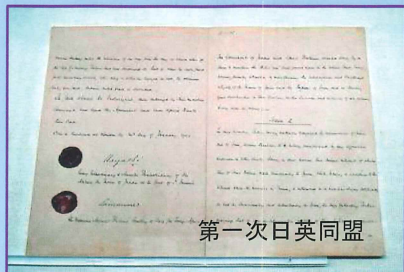
日南ご出身の在京の皆様と一緒させていただきましたが、故郷に熱き想いを持たれ、愛郷心強き皆様、そして小村寿太郎侯への敬愛の念あつき皆様の中で充実した時間を過ごし、勉強することが出来ました。

REPORT

一金会 講演 魂の日英同盟 2015年11月 講師 郡司聡視



葉山 長雲閣跡



第一次日英同盟



2015年は小村寿太郎侯生誕160周年、ポーツマス条約締結から110年、宮崎県人会もその発足は上野の精養軒での小村侯慰労会からで、110年にあたる年。忘れないよう、風化させないようにと今回改めて小村侯の偉業をお話させて頂く機会に、「日英同盟」に焦点を当てた講演となりました。

当時の策略に満ちた国際政治の舞台裏で、侯がそのずば抜けた頭脳と洞察力、当代随一の語学力、正確な情報分析と博識、類稀な実行力と胆力、気概でいかに日英同盟を成し遂げたのかを教科書や歴史小説では語られていない史実を紹介していきました。

1901年12月7日、葉山の長雲閣で開かれた元老会議の議題は「日英同盟か日露同盟か」で、そこで提出された「小村意見書」は格調ある名文として名高い。外相に就任するや真っ先に石井菊次郎に英国と露国の歴史から徹底調査をさせ、わずか2ヶ月足らずでまとめ上げて山座円次郎に清書させたもの。内容はまるでその後の日露戦争の経過を予見するがごとくで侯の驚くべき分析・洞察力が証明されている。小村侯の意見により、外遊中で不在の伊藤博文を除く全員合意で日英同盟へと舵を切ったが、実は日英同盟は当事国日本でも英国でもない独国が裏で手を引いて始まったものであったことを、皇帝ウイヘルム二世の回顧録と石井菊次郎の「外交余録」から紹介させて頂いた。日英同盟は1902年1月30日に締結されたが、その実務の当事者の林薫が後に回顧録で「小村は井上をも顧みず、伊藤も恐れず、二人を ignore（無視）して動かなかった」と称賛している。小村侯を貫いたものは私欲を捨て去った国家意識と考える。

その後の日英同盟は日露戦争中の1905年8月12日に第二次が締結され期間は10年間に延長された。1922年迄更新したが、その後の日本の国家戦略が要因となり「日本外交の骨髄」とまで言われた日英同盟は消滅した。

小村侯の活躍が、日本を世界の一等国の仲間入りを実現させた史実は、先の大戦で敗戦国となって評価が多様化しても色あせない日本外交の金字塔と讃えるに値すると考える。

平成27年(2015年)総会・懇親会



平成 27 年小村寿太郎侯東京奉賛会の第 4 回総会・懇親会が平成 27 年 11 月 7 日、日本出版クラブ会館、鳳凰の間で開催されました。日南市市議会議員他 9 名のご来賓を迎え、平成 27 年の事業報告、28 年の事業計画案が提示され満場一致で承認されました。

基調講演は前日南市市長、谷口義幸氏をお招きし、「小村寿太郎侯と日本の外交」をテーマに小村侯の一外交官という役割を超えた「誠」の精神と業績を検証しながら、その後の日本の歴史とこれからについて語っていただきました。

懇親会では保存会の石山昂様他 2 名の方が日南市から参加され、「宮崎県民族無形文化財、飢肥泰平踊り」の優雅な舞をご披露いただきました。

飢肥 泰平踊り



小村寿太郎侯 青山墓所参拝・清掃活動

小村侯青山墓所参拝・清掃活動は日南市のご援助もあり年間 5 回（周辺の樹木の剪定を含む）実施しております。

平成 27 年の活動報告

実施日	参加人員
3 月 29 日	11 名
5 月 31 日	16 名
7 月 26 日	15 名
9 月 27 日	14 名
11 月 29 日	14 名

平成 28 年は 1 月に日南市教育委員会主催の「めざせ小村寿太郎国際塾」の児童 17 名、引率者 2 名が研修の帰途、参拝に訪れました。受け入れ準備のため 1 月 23 日に清掃を会員 5 名で実施、来訪の皆さんに説明を行いました。

また、今年は東京都の許可が得られた場合、予算が可能であれば、墓地敷地内に小村侯の業績を記した「案内板」の設置を検討しております。

めざせ小村寿太郎
国際塾の皆さん

平成28年 事業計画

	吉山墓所 参拝・清掃	総会・懇親会	懇親 バスツアー	専門部会 講演 シンポジウム	一般向 セミナー	講演会	会報発行
1月							
2月							
3月	3月27日						●
4月							
5月	5月29日				●		
6月				●			
7月	7月31日					●	
8月					●		
9月	9月25日		●				●
10月				●			
11月	11月27日	11月12日					
12月							● 忘年会を兼ねて実施

各事業の詳細につきましては決定次第、事務局からお知らせ致します

写真画報 臨時増刊 講和記念帖

明治38年9月に刊行された雑誌を川村蒼市氏が入手されました。110年前にポーツマス講和会議を記念して刊行されたものです。50ページの写真、64ページの記事で構成されており、ポーツマスの様子と共に日本での日比谷焼き討ち事件前の集会の記事等々、当時の世相も解る構成になっております。

汽船ミネソタ号 船上での小村寿太郎侯



ポーツマス上陸

講和会議 会場



ご応募下さい

歴史紙芝居「小村寿太郎」 小村侯生誕160周年記念事業として、侯の「誠」の精神と生き方を若い世代に伝えていくプロジェクトが日南市で始まっており、当会も一式用意しております。小学校低学年生への読み聞かせが主たる用途ですが、この有効な活用について皆様のアイデアを募集致します。

小村寿太郎侯 セミナー 今年も引き続き、会員の方のみならず多くの方々をご参加いただける学習講座を企画しておりますが、「是非この様な形で、この分野を、この方を講師としてお話が聞きたい」というご意見、ご要望があれば、事務局迄お聞かせ下さい。